

グストボ・ペトロ大統領による国連総会第 80 回通常会期における演説

ニューヨーク、2025 年 9 月 23 日



議長殿、これは、私がここで大統領として行う最後の演説となります。これで 4 回目です。最初の演説では、ウクライナに隣接するパレスチナで紛争が発生する可能性が非常に高いことを総会で発言しました。私は、和平会議の開催を要請しました。

爆弾も巨額の予算も持たない我々は、ここでは耳を傾けてもらえませんでした。しかし、4 年後の今日、パレスチナの悲惨な状況を見て、コロンビアのカリブ海地域でも、海上で非武装の若者たちにミサイルが撃ち込まれるという、ほぼ同様の事態が起こりうるのではないかと考えるに至りました。

つまり、私たちは、今、おそらくよりグローバルな、別の状況に直面しているのです。今日の残虐行為は、地球規模であり、人類全体に降りかかっています。カリブ海の海域で、おそらくはコロンビア人を含む 17 人の非武装の若者たちに向けて、ミサイルが発射されました。数百万の移民が追跡され、拘束され、鎖につながれ、追放されています。ガザにいる 7 万人に向けてミサイルが降り注ぎ、彼らを殺しています。

気候危機への無策、そしてトランプの命令によってその言葉がかき消されていることは、すべて結びついており、同じ原因から来ています。移民は口実にすぎず、裕福で白人中心の人種差別的な社会が、自らを優越した人種だと思い込み、その指導者たちが、人類全体を自らの絶滅という深淵へと導いていることに目を向けないのです。

カリブ海にミサイルが配備されたのは、麻薬を阻止するためだと言われています。それは嘘です。この場で申し上げますが、2023 年と 2024 年、この地では、これまでで最も多く

のコカインが押収され、700 人以上の麻薬取引の首領が、米国やヨーロッパに身柄を引き渡されました。私が、彼らの身柄を引き渡し、私の政府が、コカインを押収したのです。

そして、私たちは、ミサイルを一発も撃たず、若者を一人も殺していません。かつて、コロンビアの貧しい農民に対して除草剤のグリホサートと武力で強制的に撲滅するよりも、コカの葉の栽培を自発的に別の作物に置き換えるほうが効果的であることを、確かめた時期がありました。私は、失敗し暴力的であった麻薬戦争を、薬物密売対策としての効果的な政策に転換しました。つまり、薬物と貪欲な人間を混同してはいけない、ということです。

しかし、彼らは、コロンビアとラテンアメリカを支配するためには暴力を必要としています。彼らは、対話を破壊し、カリブ海の貧しい若者たちに殺戮ミサイルを投下する必要があるのです。麻薬対策政策は、米国に流入するコカインを阻止するためのものではありません。

麻薬対策政策とは、一般的に南の諸国を支配するためのものです。薬物そのものを対象とするのではなく、権力と支配を対象とするのです。だからこそ、私は、皆さまの前で、トランプ大統領自身によって資格を奪われた大統領として語っています。彼には、それを行う権利は人間的にも神としてもなく、また精神的な理由もなかったのですが。

数万人の農民を、コロンビアのマフィア的権力者に影響を受けたアメリカ合衆国政府が、暴力的に強制しようとしているのです。

何十万人ものコロンビアの農民たちが、ガザの子供たちが虐殺されるのと同じように虐殺されてきました。

この虐殺は、コロンビアの麻薬密売マフィアと結託し、賄賂を受け取っていた上院議員、大統領、大臣といった政治家たちによって、コロンビアで行われました。

同時に、アメリカ合衆国フロリダ州の極右勢力と結びつき、そして今ではトランプ政権とも同盟しています。さらに、数十年来コロンビアのコカイン麻薬取引のボスたちとも、結託してきました。イタリア人が言うところの「本物のごみ屑」なのです。

ワシントン、アメリカ合衆国で行われている麻薬対策政策は、その「ごみ屑」と結託した者たちによって進められています。トランプが、自らのコロンビア、ベネズエラ、そしてカリブ海に対する外交政策が、コカイン・マフィアの政治的同盟者であるコロンビア人によって助言されていることを知っているのかどうか、私には分かりません。

私自身は、これらの準軍事組織及び麻薬密売に関与する政治家たちを名指しで告発しました。上院議員として共和国議会に在任していた十年間、名を挙げて告発してきました。そのために何度も命を狙われ、私が大統領になることを阻止し、私を黙らせ、沈黙させよう

とされましたし、今や新たな進歩的な政府が続くことを、望んでいないのです。ですから彼らは、私をほとんど個人的に資格剥奪のように扱い、コロンビアを中傷しているのです。

コロンビアでは、世界史上最多のコカインを押収されましたが、それは、私たちの政権の功績であり、私は、非難されています。

コロンビアでは、コカ葉栽培の成長率の上昇を食い止めることに成功しました。その成長率は、イバン・ドゥケ大統領の政権下では年間 43%でしたが、私は、今年、それを 3%にまで低下させました。ドゥケ大統領は、選挙運動に麻薬密売人の資金提供を受けていましたが、彼を非難することはなかったのに、ペトロは、真実を語っているという理由で非難されているのです。

つまり、麻薬対策政策は社会の公共医療のためではなく、権力政治のためなのです。彼らは、ラテンアメリカに光が差し込み、再び国民の時代が来ることを望んでいません。カリブ海でミサイルによって殺害された若者たちは、おそらくここでは誰もその名前を知らないトレンデアラグアやハマスに属していたわけではありません。彼らはカリブ海地域、おそらくコロンビア出身者でした。

もし彼らが、コロンビア人であったならば、国連を支配する方々には申し訳ありませんが、米国政府高官、つまり、貧困から逃れたいと願う若者たちに対してミサイル発射を許可したトランプ大統領を含む、命令を下した最高責任者を含む、関係者を刑事訴追すべきです。ボートに乗っていた若者たちは、たとえ違法な積荷を持っていたとしても、麻薬密売人ではなく、他に選択肢のない、ラテンアメリカの貧しい若者たちでした。

麻薬密売人は、別の場所、つまりラテンアメリカ以外の場所に住んでいます。トランプ大統領は、武装もしていない移民のボートにミサイルを発射し、彼らを麻薬密売人やテロリストだと非難しますが、彼らには、身を守る武器すらありません。麻薬密売人は、ここニューヨーク、わずか数ブロック先、そしてマイアミに住んでいるのです。

そして彼らは、米麻薬取締局（DEA）と取り決めを結び、アフリカやヨーロッパ、ロシア、あるいは中国では密輸を許しているが、アメリカ合衆国では許していないのです。アメリカはコカイン消費の増加を食い止めているものの、消費量自体を減らしているわけではありません。それは、アメリカの依存症に苦しむ人々が、実際に病んでいるのですが、致命的な薬物、すなわち気候危機による絶滅の時代における人類のカウンターカルチャーの薬物であるフェンタニルの消費へと移ってしまったからにすぎないのです。

このフェンタニルは、アメリカ合衆国の産業装置の中で、ここ、そしてこの近くで生産されています。消費者にとって、それは、アメリカ国内での自己消費であり、人類がワインやアルコール、ビールを知って以来、薬物について理解し得た最悪のものに行き着いたのです。

フェンタニルとガソリン中毒者は、世界における生命の完全な毒です。ガソリンはフェンタニルよりもさらに悪いものです。

ここにいる黒人の人々、ここに古くから暮らしてきた先祖代々の人々、二万年以上の歴史を持つ人々、若者たち、子どもたちが大量に死ぬのを見たくない女性たち、白人も黒人も、あらゆる皮膚の色の人々で、まだ考える力を持つ人々、まだ思考する人々は、フェンタニルや虚偽のテレビの下で眠らず、アメリカ国内でさえ暴政を止めることができるのです。

そして世界では、カリフォルニア、ニューヨーク、フィラデルフィアの街頭に出る市民たちがいます。そこでは、自国民を脅かすためにトランプが派遣した軍隊にもかかわらず、自由の鐘が鳴らされました。自由な市民権を持つ州においても、今日では最悪のアメリカ大統領による悪の暴政の前に団結を失いつつあるのです。

100 万人のラテンアメリカ人が、その大半がコロンビア人であるにもかかわらず、互いに殺し合っていることに気づいていません。そして、さらに 100 万人のアメリカ人が、フェンタニルによって命を落とすでしょう。

10 年前、この国ではコカインが混ぜられた毒物によって年間 3,000 人を死に至らしめていました。現在では、フェンタニルはその 10 万倍以上もの人命を奪っています。アメリカは 50 年間の不合理な政策によって状況を改善したのでしょうか、それとも悪化させたのでしょうか。そしてその結果、社会は脳や肺を破壊する薬物による、人類史上の恐るべき死の淵へと導かれているのです。

ガザでのジェノサイドの問題です。

トランプは、カリブ海で若者たちにミサイルが降り注ぐことを許すだけでなく、移民を投獄して鎖でつなぐだけでなく、ガザで子どもや若者、女性や高齢者にミサイルを撃つことも容認しています。彼はジェノサイドの共犯者となっており、これはまさにジェノサイドであるため、何度も声を上げて訴えなければなりません。

この場は、今日の世界における虐殺の沈黙の証人であり、共犯者です。それがヒトラーだけの専売特許だと思っていた頃、トランプは民主主義について語らず、気候危機について語らず、生命について語らず、ただ脅し、殺し、何万人もの人々を殺すことを許しています。

一方、私の政権では、コロンビアでは、殺人率は上昇していません。国内の失業率は、今世紀最低、統計上の貧困率も今世紀最低であり、農業は、実質年率 10%、工業は、年率 5%の成長を続けており、かつてないほど多くの観光客が、この国の素晴らしい美しさを見に訪れています。

美しさと、自然、人間、文化の多様性に恵まれた、コロンビアでは、麻薬組織や反政府勢力との対話を通じて平和を追求しています。私は、人命を救うためなら、いつでも対話す

ることに躊躇しません。暴力に疲弊した農民たちの意思を尊重し、違法経済の完全な根絶とコカ葉栽培の撲滅を原則としています。

コロンビアの過去の政権のように麻薬組織に買収されることはなく、すでに 25,000 ヘクタールが自発的に根絶されました。私たちの新しい政策は、麻薬対策ではなく、麻薬密売者対策であり、それは異なるものです。

平和の種を蒔くために支援してくださった各国、カタール、キューバ、メキシコ、バチカン市国、ノルウェー、ブラジル、ベネズエラに感謝申し上げます。我々を内戦に導こうとする国々には感謝しません。

世界中の皆様、ラテンアメリカはコカやテロリスト、麻薬密売人だけではありません。ラテンアメリカには、水力、風力、太陽光による年間 1,400 ギガワットのクリーンエネルギーの潜在能力があります。一方、北の米国では、ここでは毎年 1,200 ギガのエネルギーを必要としています、その 70%は現在、石炭、ガス、石油といった化石燃料に依存しています。

ラテンアメリカは、そのクリーンエネルギーの潜在力を開発すれば、米国の化石燃料エネルギーのすべてに取って代わることができるでしょう。ご存じでしょうか、必要なのは資金だけであり、それが実現すれば、気候危機を克服するための最大の貢献となるのです。

今日、クリーンエネルギーの潜在力とアマゾン熱帯雨林の膨大な吸収力との間にはほとんど進展が見られませんが、ラテンアメリカは、地球と人類全体の生命を救うための確固たる第一歩を踏み出すことができる人類の先駆者となるでしょう。その潜在力を開発するには、6,000 億ドルしか必要ありません。

アフリカもヨーロッパと同様に同じことができるでしょう。この基本的な脱炭素化の側面を合計すると、1 兆 2,000 億ドルになります。この資金はすでに米国、ヨーロッパ、中国の金庫に保管されていますが、収益性が低いため、1 ドルも動いていません。

さらに悪いことに、米国、欧州、中国の人々の生活を含め、人命の面では非常に収益性が高いにもかかわらず、彼らはラテンアメリカやアフリカとの相互依存を望んでいません。ラテンアメリカとアフリカのクリーンエネルギーを北半球の化石燃料経済と結びつけることで、地球の脱炭素化や気候変動の崩壊を防ぐだけでなく、世界の勢力図も変化することを彼らは知っているからです。

ここで時々発言する者は、毎日発言しているわけではありませんが、言葉ではなく爆弾で脱炭素化を実現し、グローバルな民主主義を権力の座に戻し、生産関係を変えます。なぜなら、食欲よりも生命と人類が優先されるからです。

食欲は、生命の毒であり、対立する矛盾である、と政治家、哲学者、知識人、軍事戦略家、中国共産党および中華人民共和国の創設者である毛沢東は、かつて述べました。彼は、中

国人ですが、雇用主と労働者についてではなく、食欲と地球そのものの生命について考えていました。

科学によれば、私たちは 10 年以内に、もはや後戻りできないポイントに到達すると言われています。そのポイントを越えてしまえば、もはや何もできず、ただ大災害を目の当たりにし、それを実感するのみとなります。それは、私たち自身の家族にも及ぶでしょう。なぜなら、それは必然であり、避けられないことだからです。生命の絶滅、それは人間も含む、という事実を、皆さんもご存じでしょう。

この過程は、不可逆的であり、もはやいかなる技術も、いかなる政治的・社会的勢力も、いかなる人間の知性も、崩壊を食い止めることはできません。科学によれば、私たちに残された時間は 10 年です。しかし、ここでは、科学を信じていません。世界で最も権力のある人物の一人が、科学を信じていないと発言しました。それは、非合理主義と呼ばれ、非合理主義は、フォイエルバッハ、ヘーゲル、カントという偉大な哲学者の故郷であるドイツを哲学の面で満たしていました。

そして今日、非合理主義は米国であふれつつあり、それは、1933 年のヒトラーの前兆です。

解決策は、石炭、石油、ガス、炭化水素の消費をやめ、水、太陽、グリーン水素、風力へ迅速に移行することです。しかし、脱炭素化という言葉は、G7、G20、ダボスといった、強力な国々の会議では、今や破壊的な言葉として聞こえます。5 世紀前に、民主主義という言葉が破壊的に聞こえたのと同じです。

脱炭素化への投資の問題です。

ここニューヨークでも、カルタヘナでも、ボゴタでも、パリでも、そしてとりわけマドリードでは、私がここで述べている 6,000 億ドル、1 兆 2,000 億ドルという金額は、先進国が約束した金額よりも 1 桁、あるいは 2 桁多いものです。

それは施しであり、パリの COP 以来、彼らは約束を果たしていません。なぜなら、彼らは脱炭素化に関心がなく、その数字のゼロの数は、多国籍銀行によるわずかな融資の過剰分であり、それはまさに 純粋な施しであり、無害なイデオロギーであり、資本の収益性が大気を浄化し、生命を救うという、虚偽の、イデオロギー的な、幻想的な、物神崇拜であり、私たちが上を見上げず、人類として行動しないようにするためのものです。

気候危機は、すべての公共予算において、脱炭素化と適応への投資を優先することを意味し、まったく異なる世界的な金融政策と、債務のリスクプレミアムの廃止を必要としています。

温室効果ガスを最も多く排出している国々、つまり地球上で 2 番目、あるいは 1 番目に排出量の多い国々が、リスクが高いと誰が言ったのでしょうか。CO₂ を吸収し、熱帯雨林

と豊富な水資源を持ち、南半球が北半球の CO₂ を吸収している国々が、リスクが高いと誰が言ったのでしょうか。なぜなら、市場がそう言っているからではなく、それは間違っており、生命の深淵へと向かっているからです。

最貧国では、債務の免除が必要であり、対外債務の返済を、気候危機への適応と緩和のための投資に振り替える必要があります。中国、ドイツ、アメリカ、ウォール街、パリ、ロンドン証券取引所の皆様、もし皆様が私たちの国々の対外債務の利息を回収したいのであれば、そこには墓地と死者が待っています。そして、債務の利息を回収しに行った皆様も、墓地と死者となるでしょう。死体の山の中で、そのお金は何の役にも立ちません。

ここに、もうひとつの破壊的な言葉があります。計画、グローバルな計画、その言葉は、市場によって忘れ去られました。計画は必要ない、と彼らは言いました。計画は、人間のものであり、忌むべきものであると。市場には、多くの宗教的かつ誤った信念が解き放たれました。市場が幸福をもたらすと考え、原理主義的な信念でした。スイスの経済学者ワルラスは、そう述べました。そして、深淵へと落ちました。

しかし、市場がもたらすのは、今日、我々が目の当たりにしているように、幸福ではなく、死と深淵です。ワルラスは、間違っていました。新自由主義は、最初から間違っており、我々は、50 年にわたり、まったくの誤った非科学的な手法で各国を導いてきましたが、それを変えようとはしませんでした。

その計画は、国民国家に対して拘束力を持ち、グローバルな民主主義のもとで策定され、履行については安全保障理事会によって監督されるべきです。その際には拒否権は、認められるべきではありません。なぜなら、市場は、気候危機を解決しないということを、私たちは理解しなければならないからです。むしろ市場自体が、その危機を生み出したのです。それは、石炭や石油を食欲に消費する機械を所有する者と、より多くの物を生産して雇用主に売らせるために働かざるを得ない男女の労働者との間に存在する不平等な人間関係、すなわち資本の仕組みによるものです。雇用主の機械によって作られる製品は、ますます多くの石油を必要とし、そのことが気候危機を引き起こしたのです。

より多く生産し、より多く販売し、より多く収益を上げ、より多く、より多く、そしてより多く使用すること。つまり、今日まで石炭や石油を消費し続けてきたのです。しかし、それは、永遠に続くわけではありません。石油と石炭は、おそらく資本の終焉である、その限界に達したからです。資本の終焉でなければ、人類と生命の終焉となるでしょう。

つまり、資本の所有者は、力を持つ人間であり、物でも、物神崇拜でもありません。その人間は、その食欲さ、食欲さへの完全な奴隷化によって、ここで承認されることを求め、より多くの石油を求め、各国でより多くの石油を求め、大気を CO₂ で汚染すること、つまり地球上のすべての生命を汚染することを厭わないのです。

「掘れ、掘れ、さらに掘れ」と、彼らは、無慈悲に言います。ですから、皆さん、資本か命か、強欲か命か、野蛮か地獄的そして世界的な民主主義か、自由か死かのいずれかなのです。ボリーバルが言ったように、そして彼が掲げた赤・黒・そして白の旗のように——赤は自由、黒は死、白は平和を意味します。

世界革命について述べます。

諸国民の世界的な革命は、可能です。気候危機を前向きに克服し、危機が世界的な崩壊に陥るのを防ぐために必要なのは、団結した諸国民の文明の革命です。諸国民は、諸国家よりも、対話しなければなりません。それは、この惑星で生き続け、自由であり続けるための人類による革命であり、おそらくは、今日の生命を守りたいと考える一部の政府と協力したものとなるでしょう。

国連は、その危機と変革の必要性を認識しています。ここでは、もはや力を持たない国民国家が集まっています。彼らがどれほど投票しても、その声は無視されます。なぜなら、国民国家もまた、おそらくは最終的な衰退期を迎えているからです。

それは、数世紀前に発明されましたが、もはや通用しなくなっています。なぜなら、資本そのものが国家的なものではなく、グローバルなものに変わってしまったからです。政治家、軍人、革命家、そしてソ連の独裁者であったヨシフ・スターリンの社会主義も、国家的ではなくグローバルなものとなるべきでした。しかし、スターリンにはその理解がなく、部族的な考えに依存し、ヤルタにおいてスペイン、イタリア、ギリシャでの世界革命を封じ込めました。そして、もしかするとそれは、ラテンアメリカや他の地域でも起こり得たのです。

新たに登場している政治的主体は、人類であり、国民国家ではありません。したがって、国際連合は一つの人類として、しかし多様性を持った人類として変わり、変革していかなければなりません。人類の歴史において新たな政治的主体が、出現しているのです。それは重要なことであり、私には素晴らしいことに思えます。つまり、私たちは、国民国家という概念を乗り越え、人類そのものへと変わっていくのです。

しかし、その人類が団結し、行動において唯一の存在となるためには、世界中に民主主義が存在し、多様性の中で永続的な対話が行われなければなりません。私たちを、世界規模での効果的な行動の調整の可能性へと駆り立てるのは、対話する人類という多様性なのです。

そうです、市民的人類、深く民主的な人類、そして願わくば、自由な人々からなる人類、それが、人類の定義であり、その同義語です。なぜなら、奴隷の人類などありえないからです。奴隷の人類は、人類ではなく、獣です。移民に鎖をかけ、若者たちにミサイルを撃ち込み、イエスが生まれた場所のすぐ近くの村で子供たちをミサイルで撃ち殺す者たちは、獣なのです。

これはもう、口先ばかりで何もしない国家では解決しません。石油で買収され、南の民に向けてミサイルを撃つことをいとわない支配者たちでも、解決しません。そこで新しい政治的主体が、現れます。それは、多様な文化を持ちながらも結ばれた人類そのものです。崩壊が近づき、ヨーロッパやアメリカの古い白人社会が流行りの新しいヒトラーたちを拍手で迎え続ける一方で、彼らは若者の声も、子どもたちの声も、人類の声も、星々の声も、そしてヨーロッパの戦場でヒトラーとその優越人種という犯罪的な思想に本当に立ち向かい、英雄として死んだ祖父母の声すらも聞こうとしません。

今の彼らは、ヒトラーと同じことをしています。移民のための強制収容所をつくり、選挙での多数派に拍手を送り、移民は、劣等な人種だと言い、ユダヤ人にしたように彼らに罪を集団的に背負わせ、テロリストだ、劣等だ、泥棒だ、麻薬密売人だと呼んでいます。けれども麻薬密売人の大多数は、金髪で青い目をしており、その莫大な富を世界最大の銀行に隠しています。彼らはボゴタにも、カラカスにも、カリブにも、ガザにも住んでおらず、マイアミに住み、アメリカ大統領の隣人であり、ニューヨークやパリ、マドリッドやドバイに住んでいます。そこは貧困ではなく贅沢のある場所です。しかしミサイルを落とすのは贅沢のある場所ではなく、貧しい場所なのです。「トレンデアラグア」がテロリストだというのは嘘です。単なる普通のギャング集団にすぎないのに、愚かな発想でベネズエラを封鎖し、その重くて毒のある石油を奪おうとして誇張しているのです。

移民は、犯罪者ではありません。彼らを強制収容所に送ったり、鎖で縛って追放したりする必要はありません。移民は、イラクやイラン、キューバ、ベネズエラといった貧しい国々に対する封鎖の結果にすぎません。経済封鎖は、まさにジェノサイドに他なりません。

移民とは、貪欲で返済不可能な債務によって最も貧しい国々が貧困化させられた結果にすぎません。移民とは、アメリカ合衆国と、アメリカとは逆関数のヨーロッパが引き起こした石油をめぐる戦争と侵略の結果にすぎません。移民とは、崩壊へと向かう気候危機の結果にすぎず、熱の上昇によって生命の源である水が蒸発し、熱帯の土地から水が失われる結果にすぎません。

移民への解決策は、鎖や刑務所やミサイルではありません。優れた人種など存在しません。神に選ばれた民など存在しないのです。

米国もイスラエルもそうではありません。極右の無知な原理主義者たちがそう考えているだけです。神に選ばれた民とは、人類全体なのです。

彼らは、日々生命を脅かす気候危機に対して何もしない口実として移民問題を利用しています。白人や高齢者からの票を獲得するために移民問題を利用しながら、権力の座から、石炭や石油の消費を終わらせなければならないという事実を隠蔽し、掘削、掘削、そしてまた掘削を奨励しているのです。国連は、今すぐ変わる必要があります。

これまでとは違った、人間的な国連は、何よりもまず、ガザでのジェノサイドを止めさせなければなりません。人類は、ジェノサイドをもう一日も許してはならず、ネタニヤフや、米国やヨーロッパの同盟国の虐殺者たちを自由のままにしておくことも許してはなりません。国連は、国際司法裁判所は、文明の基盤であり、歴史に凝縮された人類の知恵である国際法を守らせ、その正義の判決を執行させなければなりません。

皆さん、外交は、ガザの場合、その役割を終えました。問題を解決できなかったのです。マクロン、申し訳ありませんが、パレスチナのこのアラブの国で、毎秒のようにミサイルが落下し、罪のない乳児たち、男の子も女の子も、その体を破壊しているのに、話し合いを繰り返し続けることができるというのは、正しくはありません。

国連安全保障理事会で感情が拒絶される日々が続くにつれ、日々、空爆を受ける子どもたちが増えているのです。爆弾は、ますます投下され、死者は、ますます増えているのです。拒否権を行使する者は、母でも父でもなく、生きた人間ではありません。おそらく暗い勢力から来た者であり、心を持たぬロボットのような存在です。ジェノサイドは、外交の後に取られる手段によって止められねばならないのです。

それは、国連総会の採決のようなものであり、拒否権を持つ安全保障理事会の投票ではありません。パレスチナのための「平和のための団結」として、パレスチナの民の命を守るための武装部隊を結成するのです。今日求められるのは、言葉と武力です。

それは、訓練も受けておらず、時には必要な行動も取れないブルーヘルメットではありません。それは、虐殺を受け入れない国々による強力な軍隊です。だからこそ、私は、世界各国の政府、そして何よりも、人類の一員である各国国民に、軍隊と武器を結合するよう呼びかけます。

パレスチナを解放しなければなりません。私は、アジアの軍隊、ヒトラーを英雄的に打ち負かしたスラブ諸国の軍隊、ボリーバル、ガリバルディ（イタリアにも軍隊を擁していた）、マルティ、アルティガス、サンタ・クルスのラテンアメリカの軍隊に呼びかけます。ボリーバルの「自由か死か」の剣の時刻には、もはや言葉は不要です。なぜなら、彼らは、ガザやカリブ海地域を爆撃するだけでなく、自由を求める人類全体を爆撃しようとしているからです。アメリカと NATO は、民主主義を殺し、世界規模で専制政治と全体主義を復活させようとしているのです。

ボリーバルが掲げた赤と黒の「自由か死か」の旗を掲げなければなりません。赤と黒とともに掲げた白、つまり平和の色も忘れてはなりません。それは、地球と人類の心に生命の希望があることの象徴なのです。米国は、もはや民主主義を教えるのではなく、移民と貪欲によって民主主義を殺しています。米国は専制政治を教えているのです。

国連は、世界救済軍の効果的な力によって、国連総会で投票され、拒否権のない、ガザでのジェノサイドを止めることから、その変化を始めなければなりません。ガザを救った後、

私たちは、地球の経済を脱炭素化する計画に移ります。それは、世界規模で民主的に構築され、グローバルな民主主義を確立するものであり、その迅速な実施を監視する機関は、拒否権のない安全保障理事会とし、その決定は、国内および世界の金融システムが資本を集中化する大きな能力を持つことから、WTO、世界銀行、IMF、民間金融システムに対して拘束力を持つものとし、そこから、人類は、資本を規制し、生命と人類に従属させることができます。つまり、生命と人々に規制され、従属した資本です。

この道筋によって、国連は、国家の同盟から、人類を構成する多様な民族や文化の同盟へと移行するでしょう。気候危機を克服すれば、それは、人類が団結してこそ達成できることですが、国連も諸国民の議会へと一步を踏み出し、地球上のすべての人々が自由であり、一人ひとりの頭脳が最大限の可能性を発揮し、地球上で相互につながり合うことを目指すようになるでしょう。なぜなら、人類の偉大な頭脳は、強力な知性として、ますます深まる科学に照らされ、地球上の生命を救うだけでなく、人類の使命を果たし、星々に生命を広げることができるからです。団結し、自由な人類は、星々を見上げ、それに到達することができます。それは、古代ローマ軍団兵たちがかつて考えたこと、つまり、ラテン語の「ad astra, ad astra、星々へ、星々へ」という言葉が生まれたとき、自由か死かの選択を迫られたときのことでした。ミサイルによる死は現実のものですが、人間の心にある自由、そして団結、反逆、存在の能力もまた現実のものです。

どうもありがとうございました。

(新藤通弘訳)